

令和6年度第三者評価 改善状況報告書

令和7年3月31日

施設名	港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂（認知症対応型通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区赤坂6-6-14	指定管理者	社会福祉法人 東京聖労院

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和7年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和7年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
<p>施設の事業計画・予算計画の推進に当たっては、経営層が、収入・稼働率・経費・人員計画などの数値目標を設定し、毎月・4半期・半期ごとに進捗状況の確認を行っている。</p> <p>また、毎月の法人運営委員会では計画の進捗確認と見直しを行うと共に、目標数値と実績に乖離がある場合は、毎月の課長会で原因を分析し対策を講じ、計画の実践に取り組んでいる。</p> <p>施設では、事業計画・予算計画について、職員会議や係のミーティング等で周知しているが、生産性や効率性の更なる向上に向け、地域へのアピールや職員募集サイトの充実が望まれる。</p>		<p>施設全体の取組として、業務検討委員会を立ち上げ、1～2か月に1回のペースで開催した。</p> <p>国が求めている生産性向上に必要な項目の「①負荷が集中する時間帯の業務を細分化し、個人に集中することがないよう平準化すること」「②利用者の介助に集中して従事する介護職員を設けること」「③いわゆる介護助手の活用（食事等の準備や片付け、清掃、ベッドメイク、ごみ捨て等、利用者の介助を伴わない業務を集中的に実施する者を設けるなどの取組）を行うこと」「④利用者の介助を伴わない業務の一部を外注すること」について話し合いを進め、各フロアの必要な時間に介護助手職員を配置し対応した。</p> <p>地域へのアピールでは、地域懇談会の開催と共に、福祉避難所の設置訓練に関する説明を地域の皆様へ報告した。</p> <p>職員募集サイトについては、募集状況を毎月確認し、必要な募集をそのタイミングで行っている。</p>	<p>港区介護ロボット等導入支援補助金の検証施設に選定され、生産性向上の専門家や港区介護保険課が、業務検討委員会に参画いただける予定。施設職員のみでは、検討の視野が狭くなってしまう恐れがあり、専門家や第三者の参画によって、更なる生産性の向上に取り組んでいきたい。</p> <p>こうした取組を地域に積極的に発信し、職員募集にもつながるよう、周知内容や方法を充実させていく。</p>	<p>定期開催中の業務検討委員会において、生産性向上に向けた話し合いを行い、その計画を着実に実践し、地域へのアピールに取り組んでいることが評価できる。</p> <p>今年度は、介護ロボット等導入支援補助金の検証施設に選定されたことを受け、専門家の意見も参考に、更なる生産性向上に取り組むことを期待する。</p> <p>さらに、地域福祉の増進につながるよう、積極かつ効果的な周知についても期待する。</p>
<p>デイサービスの利用ニーズは認識しつつも、特に家族にとっては、認知症対応型のデイサービスを利用することに対して、病気・症状からくるネガティブなイメージが強く、世間体を気にして利用を躊躇するケースも少なくない。</p> <p>認知症への理解と認知症対応型通所介護を利用することのメリットなどを地域へ継続的に発信していくことにより、認知症に対する早期対応が進むよう配慮することが望まれる。</p>		<p>令和6年度第2回運営推進会議に、担当ケアマネジャーや地域包括支援センター、港区担当者、第三者委員にも参画いただき、個別アプローチ表を説明した。</p> <p>①考えられる主な認知症状、②具体的な活動提供・アプローチについては、参加者から「もっとこうしたアプローチ、取組をアピールした方が良い。」という激励の言葉をいただいた。</p> <p>地域への発信としては、X（旧Twitter）を活用し、未利用者やご家族・地域の方に対し、デイサービスの活動内容をアピールしている。</p>	<p>今年度も引き続き、個別アプローチ表を更新させていくとともに、一般デイサービスの利用者のうち、職員の介入が必要と思われる利用者に対しても、個別アプローチの情報を共有できる仕組みを構築していく。</p>	<p>個別アプローチ表の活用のほか、X（旧Twitter）によるデイサービスの活動報告など、未利用者やご家族・地域の方に対し、デイサービスの活動内容をアピールしていることは評価できる。</p> <p>引き続き、地域へ継続的な情報発信を行い、認知症に対する早期対応につながる取組に期待する。</p>
<p>施設全体で「認知症ケアプロジェクト」を設置・運営し、成果を実践に反映するなど、実践研究に取り組んでいる。プロジェクトでは、社会的に認められたプログラムを採用し、施設に馴染むよう精査して実践している。</p> <p>認知症デイサービスでは、音楽療法、回想法、学習療法などを日常的に実践し、効果を見込んでいる。一方、利用に関しては、厚い職員体制に伴う報酬単位の影響もあり、一般デイと比較して低い状況にあり、利用率の向上が課題。</p> <p>家族、ケアマネジャーに対する広報等を通じて、利用率向上に取り組むことが望まれる。</p>		<p>サービスの具体化・見える化に取り組んだ。具体的には、誕生日だけでなく、様々な活動の様子を写真に残し、画像でご家族にお渡しすることで、デイサービスでの様子をわかりやすくお伝えした。ご家族からは、大変好評をいただいた。</p> <p>今後の課題としては、「認知症」という言葉の重さ・強さがある。ご両親に認知症があり、個別の活動が必要と感じていても、認知症通所介護を利用するということが大きな抵抗を持っておられる方が多く、出来れば活動に上手く参加出来なくても、一般通所介護を利用させてあげたいとほとんどのご家族が考えている。</p> <p>引き続き、サービスの具体化・見える化を行いながら理解促進に努めていく。</p> <p>なお、来年度、ダイバーショナルセラピーを施設として取り入れていくため、今年度は、プロジェクトメンバー全員が当該の研修を受講した。</p>	<p>引き続きサービスの具体化・見える化を推進するとともに、認知症ケアプロジェクトメンバーを中心に、ダイバーショナルセラピーを取り入れたプログラムの実践に取り組んでいく。</p>	<p>X（旧Twitter）によるデイサービスの活動報告など、未利用者やご家族・地域の方に対し、デイサービスの活動内容をアピールしていることは評価できる。</p> <p>また、令和7年度は、ダイバーショナルセラピーを取り入れたプログラムの実践などを通じて、利用率の更なる向上に期待したい。</p>